

教育委員会会議録

令和4年（2022年）8月定例教育委員会会議		
開 会 日	令和4年（2022年）8月25日（木）	
開 会 時 間	午後2時00分 ～ 5時15分	
開 会 場 所	SPRING熊本花畑町 7階 D会議室 ※一部オンライン開催 オンラインでの出席者については各執務室	
出 席 者	委員会	遠藤洋路 教育長 出川聖尚子 委員 小屋松徹彦 委員 西山忠男 委員 吉野一徳 委員
	事務局	松島孝司 教育次長 中村順浩 教育総務部長 田口清行 学校教育部長 他
提 出 議 案	議第59号 富合中学校校舎増改築工事請負契約締結に対する意見について 議第60号 白川小学校校舎増改築工事請負契約締結に対する意見について	
報 告	(1) 市立高等学校・専門学校改革基本計画（必由館高等学校編）素案について (2) 総合ビジネス専門学校改革に関する意見交換会について (3) 天明校区施設一体型義務教育学校基本計画（素案）について (4) 令和3年度（2021年度）図書館事業統計について (5) 令和5年度市立高等学校使用教科書の採択について (6) 令和4年度全国学力・学習状況調査の結果について (7) 令和5年度（2023年度）熊本市立学校管理職等採用選考試験の申込状況等について	
自 由 討 議	(1) 新型コロナウイルス感染症に対する新しい対応について	
署 名	出 川 聖 尚 子	
	吉 野 一 徳	
会議録作成者	教育政策課 玉野あゆみ	

〔開会の宣告〕 遠藤洋路 教育長 〔会議の成立〕 遠藤洋路 教育長 〔公開の審議〕 遠藤洋路 教育長 遠藤洋路 教育長	令和4年8月定例教育委員会会議を開会いたします。 本日は、私の他4人の委員が出席しておりますので、この会議は成立しております。 会議録署名人は、出川委員と苫野委員とします。 本日の会議の内容につきましては、会議日程のとおりですが、通知しておりました案件のうち、議第61号 熊本市立総合ビジネス専門学校学則の一部改正について及び議第62号 熊本市立総合ビジネス専門学校管理運営に関する規則の一部改正については、取り下げております。 また、本日の議事のうち、議第59号 富合中学校校舎増改築工事請負契約締結に対する意見について及び議第60号 白川小学校校舎増改築工事請負契約締結に対する意見については、会議規則第13条第2号「教育予算その他議会の議決を経るべき議案についての意見の申出に関する案件」の非公開事由に該当することから、非公開の審議が適当と思いますがいかがでしょうか。 議第59号及び議第60号につきまして、非公開に賛成の委員は、挙手をお願いします。 （全員挙手） 全員賛成により、議第59号及び議第60号は、非公開とします。
日程第1 前回会議録等承認 遠藤洋路 教育長	7月28日開催の令和4年7月定例教育委員会会議録を各委員のお手元に配布しております。この会議録を承認することに、ご異議はありませんか。 （異議なしの声） 異議なしと認め、前回会議録等を承認することに決定します。

日程第2 事務局報告の件

（1）事業・行事等報告について

- 前回定例会議（R4. 7. 28）以降の事業・行事報告
- 今後の予定

日程第4 報告

・報告（1）市立高等学校・専門学校改革基本計画（必由館高等学校編）素案について

《松永直樹 学校改革推進課長 報告》

西山忠男 委員

最後にご説明のあったスケジュールの話の2番目の理由ですけど、これは国からの補助金が出るという意味なんですか。

松永直樹 学校改革推進課長

6月の教育委員会会議でもご紹介をさせていただきましたとおり、国においても普通科改革を進めておりまして、現時点では単年度560万円、その3か年間分の補助金がもらえる可能性がございます。現在、6月の教育委員会会議での議論も踏まえまして、既に国に申請手続を行っております。それが認められますと、最大1,500万円強の金額になりますが、その補助制度が令和6年度開校を前提としたものであったことから、開校時期がずれ込むとその補助制度も使えなくなり、また、他にも様々な人的支援等のプログラムがありますが、その利用も難しくなるといった課題があります。そういった面も踏まえると、令和6年4月開校がベストなのではないかと考えているところです。

西山忠男 委員

その理由は非常に説得力があってよく理解できるんですけど、学校側はそれで納得しておられるんですか。

城野実 必由館高等学校校長

学校側としてみれば、当然令和7年4月の方がいいんですが、いろんな研修を受けたり、講師などいろんな先生たちの準備を整えたうえで令和6年4月開校の準備ができればと思っています。人的なものなどができなければ、令和7年4月でないかと厳しいんじゃないかと思います。これだけの財政負担があるので、募集も無事応募がクリアできれば、それも致し方ないかなという状況です。

遠藤洋路 教育長	せっかくですから、城野校長、まとめのコメントがあればお願いしたいと思うんですが、いかがでしょうか。
城野実 必由館高等学校 校長	生徒会とか同窓会についても、こういう方向でと報告をしております。同窓会はやっぱり家政科、被服科からスタートしているもので、できればコースとして残してほしいという要望と、中高一貫をもしするのであれば、定員が減らないかたちで準備ができたところであるという説明で納得していただいている状況です。
遠藤洋路 教育長	校長自身の思いがあればどうぞ。
城野実 必由館高等学校 校長	学校は変わっていく準備ということで、市教委の協力の下、いろんなことをやっています。先週も政令市の10周年記念で、生徒たちがTEDの発表に取り組んでおります。夏休みに入っ てすぐは、ドイツとのオンラインにも、かなり参加しております。 この後、環境庁と一緒にやる事業などにも必由館高校として応募して、いろんな探究的な活動をやっていく方向になっております。方向性としては、開校までにかかなりの準備はできるのではないかと考えておりますので、よろしくお願いいたします。
遠藤洋路 教育長	ありがとうございます。ぜひ一緒に頑張りましょう。
西山忠男 委員	国際コースがコースとしてはなくなるわけですけど、生徒さんとの面談の中では国際コースの内容を残してほしいという希望がありました。私ももっともだと思いますから、この文理コースの中に国際コースの教育内容を何とか取り入れたかたちで、留学制度などもできれば設置していただければと思います。
城野実 必由館高等学校 校長	本当に国際コースに関しては、発展的解消という言葉を使わせていただきますけど、この留学にしてみても、姉妹都市との連携事業について、今まで国際コースの1科が中心にやっていたものを学校全体として対応していこうと考えております。国際コースから理系に進学したいとか、もともとカリキュラム上できないようなことが幾つもありました。普通コースの中にする ことで、3年時の選択の中で今までと同じ国際コースを目指

遠藤洋路 教育長	そうと思う子たちはさらに英語を選択して、他の子たちはその分理科を選択して、類型で対応していこうと思いますので、よろしく願いいたします。 他にご意見、ご質問はありますか。 ご発言がないようでしたら、本件は以上といたします。
・報告（2）総合ビジネス専門学校改革に関する意見交換会について 《松永直樹 学校改革推進課長 報告》	
西山忠男 委員	この意見交換会の最後の感想のところでも述べたんですけど、初めて生徒さんと話をして、なかなか意欲のあるいい生徒さんが集まっているなという印象を受けたというのが一つです。 それからもう一つは、この総合ビジネス専門学校のよさがあまり知られていないという印象があって、少し広報不足の面があるのかなと思います。この間の市政だよりにはちょっと載っていましたが、なかなかそういうところまで目を通す人は多くないと思うので、少し広報の方法を考えたら、さらによい生徒が集まるんじゃないかなと感じたところです。
遠藤洋路 教育長	何か、こんなふうに広報したらいいんじゃないかという提案はありますか。
西山忠男 委員	どうしたらいいんですかね。
遠藤洋路 教育長	最近の学生さんというのは、どういう媒体がいいんでしょうね。
西山忠男 委員	私も詳しくないので。
遠藤洋路 教育長	苫野委員はどうでしょうか。ユーチューブですかね。
苫野一徳 委員	ああ、それがいいかもしれませんね。

遠藤洋路 教育長	じゃ、学生、生徒の誰かにユーチューバーになってもらって、学校の広報をしてもらいますか。 古家校長、今の件で何かありますか。
古家幸生 総合ビジネス専門学校校長	まずは委員の皆様、先日はご来校いただきまして大変ありがとうございました。感謝申し上げます。 広報につきましては、実はSNSをフル活用しており、ユーチューブチャンネル、インスタグラム、ツイッター、それから学校ホームページの内容を充実させていますが、委員のご指摘のとおり、十分な宣伝効果が出ていないのかもしれないかもしれません。 ただユーチューブについては、特に今年は登録数も増えておりまして、今ちょうど学生募集要項の説明を本校の学生のナレーションでやっていますが、非常にたくさんの方が見ていらっしゃると思いますので、少しずつ効果が出るのではないかと期待しているところです。
遠藤洋路 教育長	出願者自体は増えてきていますから、その効果もあっているのかなと思いますけど、引き続き期待しましょう。 苦野委員は当日ご欠席でしたが、ご覧になって、何かご感想があればお願いします。
苦野一徳 委員	学生さんたちとコミュニケーションできなかったのが大変残念だったんですけど、せつかくの総合ビジネス専門学校でするので、確かに広報というかマーケティングというか、そういったところに力を入れて、もっともっと知名度を上げていくというのがすごく大事なことだと思いました。むしろ得意な学生さんが多いんじゃないかなと思って、学生主体でやってみても面白いんじゃないかなと思います。
遠藤洋路 教育長	ありがとうございます。ぜひビジネス専門学校でも考えてみてください。
西山忠男 委員	生徒との面談の中で、授業によって質にばらつきがあるということ言われたんです。だから授業の改善が課題なんですけど、圧倒的に非常勤講師の先生が多いということで、常勤が9名ということなので、そういう状況だとなかなか授業の改善も進まないだろうなと思うんです。 非常勤の先生には学校側からお願いしてきていただいている

遠藤洋路 教育長	という状況があつて、授業を改善してくださいとはいにくいんだと思うんです。それは大学も同じです。 ですから、人を増やすのは難しいかもしれませんが、もう少し常勤の先生が増えないと、なかなか授業の改善も難しいかなという印象を持ったところです。 ビジネスの現場にいる人に来てもらうという意味では非常勤のニーズもあるとは思いますが、常勤ですと安定して教えていただけるという、両方のメリットがあるので、常勤と非常勤の比率というのは、今後、少し考えていく必要はあるのかなと私も思ったところです。校長としてはいかがですか。
古家幸生 総合ビジネス専門学校校長	赴任して3年目になるんですけど、実はこの課題は、1年目から学生の意見として出ておりました。特に今年度は学校の方針として、授業改善に1年間しっかり取り組むということを第一にして、今やっているところです。 様々な取組をやっているところなのですが、常勤の先生方によっては力のあるなしというのが明確で、学生からははっきりと「あの先生の授業はよく分からない」「この先生の専門性には疑問がある」という意見が出ます。直接ダイレクトに校長の耳にも届いているところです。そういった場合には、先生方に対しても、きちんと指導しているところでございます。 教育長がおっしゃるように、ビジネス専門学校は非常に専門性が高く、私も非常勤の先生の授業はよく見に行くんですけど、とても感動的な授業というか、非常にいい授業をしていただいております。 ただ、学校の先生ではありませんので、いわゆる教育的な配慮であるとか特別支援教育とか人権教育とか、そういった視点も必要だと思われます。今年度は4月当初、非常勤の先生方に全員集まっていたいただいて、そういった授業づくりに関する研修会を1回やっています。こういったことも引き続きやっていければなと思っております。
遠藤洋路 教育長	意見交換のとき、私のグループの人も、起業の準備をしていますというような方がいて、とても頼もしいなと思いましたし、これからもっと活性化していつてくれるという期待も持てた、いい意見交換だったと思います。 他にご意見、ご質問はありますか。

ご発言がないようでしたら、本件は以上といたします。

・報告（3）天明校区施設一体型義務教育学校基本計画（素案）について

《松永直樹 学校改革推進課長 報告》

西山忠男 委員

高潮の最大の高さは10メートルということで、3階の床近くまで来る可能性があるということなんですけど、そうするともう3階以上にしか避難できないですね。そのときの避難可能な収容人数はどれぐらいと想定しておられますか。

松永直樹 学校改革推進課長

資料本体の通し番号で、25ページに避難所機能を有した施設整備の具体的な状況を記載しておりますが、ご意見のとおり、高潮であれば最大10メートルといった被害想定がなされております。これは昨年度、想定が見直されたところですが、この想定だと3階までは水につかるという状況ですので、最大の災害が起きた場合は、4階もしくは屋上への避難となります。

その場合にどれぐらいの方が避難可能かというのは、これから精査をしてまいります。建物の平米数が定まる中でその数字が固まることから、現時点において具体的に算出できませんが、緊急時には1人当たり1平米で計算をする、コロナ対策を十分に考慮できるような災害対応であれば4平米など、災害ごとに必要な避難可能人数を洗い出すことを今後検討しています。

また、何人避難できるかというのは、住民の方もご関心が高いところですので、この点については住民の皆様とも丁寧に協議を行いたいと考えています。

西山忠男 委員

10メートルというのはもう相当なもので、市としては他に防潮堤を高くするとか、そういう対策は取っておられないのでしょうか。

松永直樹 学校改革推進課長

この天明校区におきましては、施設整備を伴うような避難所の在り方というのは、この天明の義務教育学校が初めてとなります。残念ながら当該校区には高層の建物がまずないということ、あとは高さが低い地形が広がっているという課題がありま

西山忠男 委員	す。ですから、施設整備というよりは、垂直避難や水平避難のソフト面での避難対応を中心に、今、区役所や危機管理防災総室と取組を進めております。 また、避難の在り方については、住民アンケートも取りながら具体的に検討を行っているんですが、天明にお住まいの方が全てこの義務教育学校に避難可能かという、そういった状況には恐らくないというところです。先ほども申し上げましたように、高潮が想定されるときには早めに避難をいただく、ソフト面の対応が非常に重要だと考えているところです。 市の対応としてはそれが限界だろうと思います。防潮堤を高くするとかいうのは市の管轄ではなくて、多分国などの別の管轄になろうかとは思いますが、そういうところに対する要請をしていかないと、こういう避難施設を造るだけではちょっと不十分なような気がするんです。10メートルが想定されるなら、もう少し抜本的な対策が必要じゃないかなと思います。
松永直樹 学校改革推進課長	ご指摘の点については、危機管理防災総室等と改めて協議を行ってまいりたいと考えます。
苫野一徳 委員	先日も学校改革推進課の皆さんとお話をして、ぜひ、当事者の子どもたちの声を十分に吸い上げて、子どもたちの声を聞き入れながら、一緒にみんなでこの学校をつくっていきたくと思います。せっかくの機会なので、自分たちの学校を自分たちでつくるというこの熊本市の方針を最大限発揮できる場所にきつとなるだろうと思います。教育委員会が主導で何かつくるというよりも、地域の人も保護者も先生もみんなで、自分たちがこの地域の学校をつくるんだというようなことができるような機会にしたいと思いますので、今後子どもたちが関わるような機会であつたりとか、どのように計画なさっているのかなということをお教えてください。あと、これからの時代を見据えた発想で進められているかなとは思いますが、そういったことも情報としてたくさん学んだ上でそういう協議をしないと、結局既存の発想の中で考えてしまうことになります。しばしば言及してありますが、徳島県大熊町のゆめの森は大学のサテライト機関とか教員研修ゾーンとかもあつたり、義務教育学校と幼保もあつたり、地域の人たちが通えるライブラリーもあつたりということで、本当にごちゃ混ぜのラーニングセンターなんです。

松永直樹 学校改革推進課長	例えばそういう場所があつて、常駐とまではいきませんが、教員志望の学生たちがそこにいて、日常的に子どもたちと触れ合えとか、中学生が園児たちに絵本の読み聞かせをしているようなシーンがいつでも見られたりとか、地域の人たちが一緒にプロジェクトを子どもたちとやっているとか、そういう光景がそこで繰り広げられたらすてきだなと思うんです。 ただこういうことは、いろいろと勉強しないと、発想として出てこないと思うんです。ですから、住民の皆さんや子どもたち、先生方とも、そういうことをたくさん情報共有して、新しいアイデアをみんなで考えていくという、そういうわくわくする場を、ぜひこの機会に持てたらとてもいいんじゃないかなと思いますので、その辺の見通しというか、少しお聞かせいただけたらと思います。
	先日は、本当に様々ご提言をいただきまして、ありがとうございました。私たちも学校をつくるのにわくわくしたといいますか、非常にいいものができるのではないかと期待を持ったところです。 ご紹介をいただいた先進校の調査を進めるとともに、必要な研修や、現地調査については学校の先生方と一緒に取り組んでいるところであり、今後も続けてまいりたいと考えています。 また、資料の通し番号で50ページに、項目として「子どもたちとともに創りあげる学校」というものを入れております。苦野委員からいただいたご意見については、現場の先生方もぜひやりたいということでご意見をいただいております、開校前も開校後も、子どもたちと共に学校をつくっていくことのできる施設計画、カリキュラムの在り方を検討したいと思っております。 施設の供用開始時点で、カリキュラムや施設が完成するのではなくて、出来上がる前も後も手を入れる工夫があるような施設整備の在り方、また、義務教育学校ができるにしても、実際には4つの小学校が閉校になるというようなことから、4つの小学校をシンボリックに表すことができるような、これまでの歴史も紡いでいけるような象徴的な施設整備の在り方、そういったものも併せて研究できればと考えているところです。
遠藤洋路 教育長	他にご意見、ご質問はありますか。 ご発言がないようでしたら、本件は以上といたします。

・報告（4）令和3年度（2021年度）図書館事業統計について

《大谷修一郎 市立図書館長 報告》

西山忠男 委員

図書が有効に活用されているということで、大変うれしく思ったところですが、学校においてもやはり図書の有効な活用というのを教えていかなきゃいけないと思うんです。といいますのは、知り合いの小学校の先生に、「例えば生徒さんが珍しい花を校庭で見つけて、これは何ですかと聞かれたらどう対応していますか」と聞いたら、若い先生ほど「アプリで調べる」と。写真をぱっと撮って何かアプリに載せるとすぐ名前が出てくると言うんですが、「何で図書室に行って図鑑で調べるということをしないんですか」と言ったら、それは時間の無駄だと彼らは思っているというわけです。

それはやっぱりちょっと違うと思うんですよね。名前が分かれば良いというものではなくて、やはり図鑑を見て、どういう特徴が分類の基準になっているかということ、図鑑を見ればおのずと理解していくし、それによって種類の違いとか、どこを見れば鑑定できるかということを学んでいくんです。そういうところに図書の大切さというところがあるので、学校でもそういう教育をしてほしいなと思うところです。

福田衣都子 指導課長

おっしゃるとおり、図書館教育というのは非常に学校としても大事だと考えております。今、図書室には図書司書などがおりますが、子どもたちがいつでも来て、そして調べものをしたりといった本を読む環境を整えていただいているところです。

また、総合的な学習の時間であるとかいろんなところで調べものが必要なときは、図書館をどうやって使っていけばいいかということも工夫してやっているところです。今後もそのような、じかに手に触れて、電子図書もよろしいんですが、また、アプリで調べることも一つの方法と思いますが、手に触れて、図鑑等から自分で調べられるような環境もしっかり整えていくようにしたいと思います。

遠藤洋路 教育長	いろんな調べる方法があるということをまずしっかり経験するということが大事ですね。アプリでぱっと調べられることもあるし、それで出てこないときは、まずネットでいろいろ検索して調べてみたり、それでも出てこなかったら図書館へ行って調べてみたり、大人だといろんな方法があると知っているわけですね。アプリで調べること一つしか知らないということだと、知りたい情報が全部調べられるとは限りません。もちろんぱっと調べてそれで分かるほうがいいときもあるんでしょうけど、図書館も一つの調べる方法として有力な方法なんだよということを経験しておく必要があるでしょうね。 西山委員は研究者ですから、子どもたちに図書館で調べることが、例えば時間の無駄だよと言われたときには何と説明するのがいいんですかね。
西山忠男 委員	いや、答えを知ることじゃなくて調べるのが勉強なんですよと、プロセスが勉強なんですよという答えだと思います。
遠藤洋路 教育長	確かに。よく調べ方を学ぶということですね。
小屋松徹彦 委員	9ページのまとめを見ますと、まず入館者が一番多いのはプラザ図書館ということで、本館よりも多い。入館者に占める貸出しの割合というのは、逆に本館が多くてプラザは少ないという、この現象をどう見るのかなと。 一つはアクセスの問題があるのかなとは思いますが、プラザは寄りやすい、寄ってみたいという雰囲気があるのかな、本館はそれがないのかなと思ったりしているんです。 数年前に高知の図書館を見たときに、ここ来てみたい、休み中に寄ってみたいと思う図書館だなという第一印象だったんです。今の熊本市の図書館を見ると、第一印象がちょっと暗いという感じがするんです。特に2階に上がってみると、カーテンが閉まっている部屋があったりするので、そのような雰囲気も何か作用しているのかなと思うのが一つです。 それからもう一つは、図書館の2階にホールがありますね。映画を上映したりしていますが、利用頻度はどれぐらいなんですか。それも教えてください。
大谷修一郎 市立図書館長	まず、ホールの状況でございますが、今年度、図書館に関するアンケートを取らせていただいたんですが、その中でホール

	があることをご存じない方も多くいらっしゃった状況です。 ただ、現在の利用状況としては、主にピアノ発表会やダンスの発表会、そういうものの利用が多くございます。利用頻度は、月に数回程度利用がある状況の中で、月に2回ほどは、先ほど委員からご紹介のあった子ども向けの映画会、それから大人向けの映画会を、大人向けについては今月から始めたところです。 委員のおっしゃるとおり、施設の部分につきましては、図書館も古い建物ですので、この部分については、今後改修の話も出るかと思っております。ただ単にそういった状況で改修することも大事なことです、改修に合わせて、いろんな利用者に対するサービスの拡充というのも当然のごとく考えていかないといけないと考えております。今後の改修では、いろいろなご意見等をお聞きしながら、利用者サービスの面でも整備できればと考えております。
小屋松徹彦 委員	2階のホールは一般に開放してあるんですね。費用も他のホールに比べたら安いんじゃないかなという気もしますので、もっとホールの利用頻度を上げて、いろんな方が寄ってこられるような状況をつくるということは大事な事かなと思います。 2階は別の外階段で上がっていただけますよね。だから、利用頻度を上げて、1階は静かな雰囲気、2階はみんながどんどん寄れるような、そういった図書館になればいいかなと思ったりしたんです。
遠藤洋路 教育長	ホールの名前はあるんですか。図書館のホールは、何て呼んでいるんですか。
大谷修一郎 市立図書館長	具体的に名称が決まっているものではございません。普通に図書館の大ホールという言い方をしています。
遠藤洋路 教育長	知名度を上げたいんだったら、何とかホールって、絶対名前をつけたほうがいいですよ。命名権、ネーミングライツでもいいし、そうじゃなくてもいいんですけど、何か名前がないと、周知をするにも「図書館の大ホールを使ってください」という言い方では分からないので、そういう工夫もあっていいのかなと思います。命名権は、安くても収入になるんだったらそれで

	もいいし。 私から1点質問なんですが、電子図書館について最後にデータが出ていまして、20万冊ぐらい借りられているということで、非常に使われているのはいいなと思うんですけど、この数というのは最初の統計には入っていないんですか。最初のほうの貸出しの冊数とか、いろんな統計に電子図書館の冊数も入っているんですか、それとも入っていないんですか。
大谷修一郎 市立図書館長	電子図書館の件数につきましては、そういったデータには入っておりません。単純に電子図書館のみの数字になります。
遠藤洋路 教育長	それは合わせた数字にしたほうがいいのではないかなと思うんです。というのは、例えば先ほどだったら、6ページの年齢別の貸出者数というのがありますけど、これで7歳から12歳というのと13歳から15歳とかが非常に少ないというお話がありましたけど、一方で電子図書館の利用者は小中学生が多いという話でしたよね。だから電子図書館の数をここに足せば、大分様相が変わってくると思うんです。 紙の本だけではなくて、せっかく電子図書館のサービスも始めたわけですから、もう少し全体の中にこの電子図書館のデータも反映できるようにしたほうがいいのではないかなと思います。この点はいかがですか。
大谷修一郎 市立図書館長	現在分けておりますのは、政令指定都市関係など、前年度統計資料ということで、蔵書数は紙の分だけで報告書を提出する状況もありまして、合わせて統計することは想定していませんでした。 今後は見やすいかたちで、統計資料を作り直していけたらと思っています。
遠藤洋路 教育長	政令市で集計しているからということが一つあるのかもしれませんが、図書館として、どういう全体像になっているのかを示すことは必要なことだと思います。政令市に出す統計資料と、本来の図書館として発表する統計資料と、それぞれ作ってもそんなに大変ではないかなと思います。ただデータを分ければいいだけの話ですから、両方できると思いますので、工夫してみてください。

苦野一徳 委員

先ほどの西山委員のお話と少し重なりますが、探究的な学びとか総合を充実させていくということと、それに加えて、今、GIGAスクール構想でみんなタブレットを持っている中で、本来であれば学校図書館や市の図書館は、その一番のセンターになるべき存在だと思うんです。ですが、去年、私、ある学校司書の皆さんの集いでいろいろとお話しさせていただいたときに、逆にもう図書館は要らないんじゃないかと言われることが多いという話を聞きました。それはとんでもない話で、むしろ真逆で、これだけの情報の海だからこそ、司書の方の力や司書教諭の方々の力というのが本当に大事になってくるので、その認識をしっかりと共有していく必要があるんじゃないかなと思います。

私の子どもも1年生のときに恐竜にはまって、プラザ図書館に行ったら、司書の方がありとあらゆるものを次から次へ取り出してくださったんです。やっぱりこういう専門知、専門能力といったものがこれからますます必要で、タブレットがあれば何でもできるのではなくて、だからこそ海の泳ぎ方を図書館が我々に示してくれるという、この考えがどんどんなくなっているという話を聞きました。ぜひそのあたり、図書館や学校図書館はどんどん力を入れて周知してほしいと思った次第です。

福田衣都子 指導課長

苦野委員のおっしゃるとおり、私も図書館は非常に大事なセンターとなるべき学校の部分であると考えます。ただ司書の先生方からそのようなお声が聞こえるということも真摯に受け止めながら、どのような図書館の在り方がいいかということを指導課としても検討してまいりたいと思います。

遠藤洋路 教育長

私もこの前、どこかの機会と同じようなことを言われたことがあります。「学校図書館ってもう要らないんじゃないかという声もあるんだけどどう思いますか」みたいなことを聞かれたことがあります。学校図書館は要らないというふうに言っている人たちがいるのでしょうか。

苦野一徳 委員

司書の方たちの会議で私が聞いた話なので、司書教諭の方々や学校司書の方々はそういう感覚を受けてらっしゃる方が多いんじゃないかなというふうに、聞いた感じではそう思いました。

遠藤洋路 教育長	司書の方々が自分たちで「もう要らないんじゃない」と言っているわけではないんですよ。例えば、図書館なんかよりネットで調べればいいじゃん子どもが言っているということなんですかね。どうなんでしょう。
西山忠男 委員	図書の重要性が過小評価されている時代なんだと思うんです。例えば辞書は要らないという人がいますよね。英語の辞書は昔、厚いのを持っていました。今は全部電子辞書です。でも、電子辞書で調べるのと紙の辞書を開くのでは情報量が全然違うんですよ。紙の辞書はぱっと開いただけでいろんな用例が出ていて、すぐ一目瞭然でいろんな意味が出てきます。電子辞書では、それはありません。ずっと繰っていかねば出てきません。それでも用例は少ないし、意味だけしか出てこないですよ。勉強の内容の深さが全然違うんです。紙の辞書を使うか電子辞書を使うかで違ってくるので、本当に図書の重要性というのは、幾ら訴えても訴え過ぎることはないと思っています。
遠藤洋路 教育長	少なくとも学校の図書室がなくなるとか図書館がなくなるという心配を今する必要はないように思うんです。別に熊本市の教育委員会関係者や学校関係者で、図書館をなくそうと思っている人はいないと思うんです。 西山委員がおっしゃるように紙のいいところもあるし、デジタルのいいところもあるし、それぞれの使い方があるという、そういう話だと思うんです。調べる方法は多ければ多いほうがいいと思います。
苫野一徳 委員	だからこそなんです。本当にいろんな情報があふれているからこそ、そこの中の泳ぎ方のプロの方たちの重要性はますます増しているんです。司書の方たちのプレゼンスがもっともって高まってもいいんじゃないかなと、もうちょっと自分たちを活用してもらってもいいのになと感じられている方が多かったのかなという印象です。はっきりと分からないので、その辺はヒアリングとかをしてみるといいのかと思いました。
遠藤洋路 教育長	指導課でもぜひ司書の方のアイデアを聞いて、何に皆さんが不安を感じているのかも含めて把握して、考えてみてください。
出川聖尚子 委員	図書館と学校図書室との連携事業というのは何かあるんでし

大谷修一郎 市立図書館長	ようか。 まず、連携というものになるかどうかはちょっとあれなんですけど、図書館の中に学校図書館支援センターというものがあります。学校の司書の先生方のシステム関係の研修を行ったり、それ以外にも学校司書の先生などが、何かお困りのときにはいろいろご相談を受けたりしています。場合によっては、学校を訪問したり、こちらのほうに学校の先生に来ていただいたりというような対応をしています。
出川聖尚子 委員	そういう連携がとても大事だと思います。お子さんたちが図書の本に興味関心を持つにはどうしたらいいのかということを司書の先生が考えてらっしゃると思うんですが、その司書の先生を支えていくアイデアだとか、図書館で具体的なアドバイスができ、また、学校それぞれの図書室の状況を図書館で把握していると活性化していくのではないかと思います。 そして、学校の先生にも、子どもたちが何か調べものがあるば司書の先生に調べ方を相談してみたらというような図書館の活用を伝え、また、図書館に行って、本が並べてあるのを見るだけでも関心が広がっていくと思うので、そういう機会をつくれるといいのではないかと思います。
苦野一徳 委員	例えばですが、さっきおっしゃった中高生とかが忙しくて、本になかなか触れる機会がないというのは本当にもったいないな、もう残念だなと思うんです。でも、もう致し方ないんですよ。本当に一日中忙し過ぎて、もう本を読む時間がなくなっちゃうというのは私も見ていてすごく思うんですが、例えば国語の時間とかでも、読者家の時間というやり方があるんです。リーディング・ワークショップというんですけど、アメリカでやられていて、日本でも結構実践されている方が多いんです。とにかく大量の本を国語の授業で読んでいくんですけど、それもその子に合った本をカンファレンスしながら、子どもたちと「これを読もうか」みたいな感じでやったり、あるいは同じ本をみんなで読んで、読んできたものをみんなで共有したり、あるいは途中まで読んで、どんなふうこれからなるんだろうとみんなで考え合ったりするんです。もう読書を楽しむための技にあふれたリーディング・ワークショップで、「読書家の時間」という本も出ているんですけど、例えばそういうのを国語の時

城野実 必由館高等学校 校長	間などで取り入れるだけでも、子どもたちが本の楽しさに目覚めるような機会がたくさんあるんじゃないかなと思います。この機会に、何かそういうのを学べるよう、先生方に頑張ってもらいたいと思ったところです。 うちの学校の図書館には6万500冊以上の蔵書があって、生徒たちが7,000冊ぐらいは貸し借りをしているんですけど、それ以外にも朝読書という時間がありまして、自分が家から持ってきた本を読んだりして、毎日10分間読書をする時間を学校としてやっています。この図書館の統計で高校生年代が少ないのは、それぞれの学校に図書館があって、借りに行かなくてもそこで借りられるという数字でもあると思います。 今、部活動を一生懸命やっても、各学校でこういう朝読書の時間を設けたりしているので、本はうちの学校に関してはかなり読んでいるんじゃないかなという思いはありました。
遠藤洋路 教育長	確におっしゃるように、学校の図書館で借りているから、わざわざ公立図書館に行かなくていいというのはあると思います。
松島孝司 教育次長	今、城野校長から出たので、私もぜひご紹介したいと思います。必由館高校の図書館、一度行っていただくとわかりますが、好奇心を高める、すてきな場所になっています。私もお邪魔するたびに必ず顔を出して、相変わらずいいですねと言うぐらい本当に充実したスペースで、図書委員の生徒たちを活用されたり、高校生が本を借りたくなるような仕掛けをしたりと、たくさんの工夫があります。これは必由館高校だけではなく、小中学校でも同様に、本市の特徴でもある司書業務補助員が全校にいらっしやって、それぞれが工夫されています。私は学校訪問で必ず図書室をのぞくようにしているんですが、各学校、子どもたちの興味を引くような配置の工夫など、一生懸命取り組んでいただいています。ただフルタイム勤務ではないので、司書の方々からすると、時間的に物足りないだろうと思います。先ほどのお話も、ここに関係あるのかなと思います。 先ほど読書の時間というのがありましたけど、学校訪問の時に1年生がぞろぞろと歩いていくので「どこ行くんですか」と聞いたら、「今から図書室に行ってみんなで読書の時間です」とのことでした。そういう取組もどんどんやっていただいています。

	す。 手前みそになるかもしれませんが、学校の司書業務補助員のおかげで、かなり進んでいるのではないかと考えているところ です。
遠藤洋路 教育長	忙しくてなかなか本が読めないということも確かにあると思う んですけど、苫野委員も多分すごい忙しいですね。だけど、 すごいいっぱい本を読んでいるじゃないですか。忙しいけど本 を読む方法って、秘訣か何かありますか。
苫野一徳 委員	これはもう習慣ですね。食べることとか息をすることと同 じように、読んでいないということがあり得ないという習慣に なっているかどうかだと思うんです。それを別に小中高校生に 求めるわけじゃなくて、私、去年はそれこそ中高生向けの読書 の本を出しているんですけど、読書を私たちはグーグルマップ にしていると言っているんです。本当に全く違う世界が見えて、何 かその感覚を一度でも味わうともうやめられないと思うん です。そういう世界に何かちょっとでもいざなえたらなと思うん です。 ただ同時に、朝読書もとてもすてきだなと思うんですけど、 みんながそれを決まったときにやるのが、どれぐらい効果 があるのかも検証しなきゃいけないと思うんです。嫌な子もいる かもしれないので。 何か自然に探究をしながら、自分の興味あるものが手に取れ て、しかもそのときにカンファレンスとかがあって、こういう ものもあるよとさりげなくいざなってもらえる、これが司書の 力ですね。そういう仕方で知の世界に入り込んでいって、も う抜けられなくなっていくような、何かそういうカリキュラ ムを進めたらいいなと思います。 でも、それはやっぱり探究を優先すると、おのずとそういう ことになると思うんです。そういったある程度の根拠を考えら れるといいなと思います。
遠藤洋路 教育長	息をするように本を読むというのは、中高生のときからそう だったんですか。
苫野一徳 委員	私ですか。まあ、そうですね。

遠藤洋路 教育長	そうなんですね。それはどうやってできるのか。コツがあったらぜひ熊本市の子どもたちに伝授していただければと思います。 他にご意見、ご質問はありますか。 ご発言がないようでしたら、本件は以上といたします。
・報告（5）令和5年度市立高等学校使用教科書の採択について 《福田衣都子 指導課長 報告》 ・報告（6）令和4年度全国学力・学習状況調査の結果について 《福田衣都子 指導課長 報告》	
西山忠男 委員	4ページ目の（4）総合的な学習の時間のところの3ですけど、道徳の授業のところ、これがちょっと下がっていますね。小6のところですけど、全国から見てもマイナス1.6%で、本市との差を見ても下がっていますよね。これがちょっと気になるんですけど、これはどうしてこうなったか分かりますか。
福田衣都子 指導課長	具体的に原因としてはっきり分かるものは、今は持っておりません。 また、令和3年度との差ということで、対象となる児童・生徒が違いますので、その点も含めて調査する必要があるかなとは思っております。
西山忠男 委員	国語もそうなんです。「国語の授業の内容はよく分かりますか」というところで、本市の令和3年度との差がマイナス2.0、中3は全国との差がマイナス6.6ということで、道徳や国語という文章を使ったり頭の中で文章を組み立てたり議論をしたり、そういうところの勉強が難しいと感じているお子さんが多いのかなという気がして、どうしたらいいんだろうなと気になったところです。

遠藤洋路 教育長	確かに国語も数学も理科も、中学校3年生が特に「授業の内容はよく分かりますか」という質問に対する回答は全国よりも結構低い傾向がありますね。
西山忠男 委員	そうですね。算数も理科もそうですね。
遠藤洋路 教育長	授業が分かりにくいんですかね。そんな全部の学校で分かりやすい、分かりにくいって、そんな一律の傾向は普通ないですよ。何でしょうね。 小学校はそこまでの差は全国とはないように見えますけど、中学校は特に「授業の内容はよく分かりますか」が低いですね。 各教科問わずそういう傾向があるということに関しては、今まで原因を分析しているんですか。
福田衣都子 指導課長	昨年度に関しましては、そんなに大きな開きがこの項目に対してなかったものですから、昨年度の段階ではそんなに分析をやっているわけではないのですが、今年度、昨年度よりも差が開いたという点において、少し分析をしていく必要があるかなとは考えております。 また、この後、各学校に、それぞれの学校に応じた分析をしていただくということを一番大事にしていきたいと思いますので、その辺も含めて丁寧に考えていきたいと思っております。
遠藤洋路 教育長	分かりました。確かに昨年度に比べて、急に授業が分かりにくくなるということもあり考えられないので、ちょっと何か原因があるのかもしれませんが。
西山忠男 委員	I C Tを導入したから分かりやすくなったんじゃないかなと期待するんですけど、それと反対の傾向が見えているものですから、ちょっと何でだろうなと思うんです。
遠藤洋路 教育長	そうですね。確かにI C Tの導入で非常に、使っていることは使っているんですけど、前の質問でもそうですね。主体的・対話的で深い学びの視点という3ページも、結局自分で考えて自分から取り組んでいたとか、自分の考えをまとめる活動とか、新しいものをつくり出す活動とか、これが中学校で非常に低い。

	I C Tを使っていることは、すごく使っているというのは高いんですよね、小学校も中学校も。このギャップは何だろうなという気はしますよね。I C Tは使ったんだけど、分かりにくくて自分で考えてもいないとすると、何に使っているのかという話になりますから。ちょっとここは、今年だけの傾向であればいいのかもしれませんが、ちょっと要注意で、来年度も含めて見ていく必要があるのかなと思います。 ただ、ちょっと聞き方が、これまでの「5年生までに受けた授業で」とか「中学1年、2年生までに受けた授業で」というのは、過去の授業がどうだったかという質問にも読めるんですよね。だから、今の授業がすごく自分で考えて、自ら学ぶ授業になっていたとしたら、余計に過去はそうじゃなかったという答え方をする人もいるんじゃないのかなと、この説明文だと。 要するに過去5年間とか、小学1年生から中学2年生までの授業はどうだったかという話ですよね、これは。なので、何かちょっと設問がどうなのかという疑問も個人的にはあります。私なら「去年までの授業はどうだったか」、うーん、去年までの授業は大したことなかったよねと。でも、今年、すごい何かI C Tを使って面白くなったというんだったら、昔のものは使っていなかった、考えていなかったと出ちゃうように思うかもしれない。そんな発想の人が他にいるのかどうか分かりませんが、自分ならそう答えるかなという気がします。
松島孝司 教育次長	ある校長先生との話で、この結果を見て、なぜだろうかと思われたそうです。学校での話題としては、子どもの目が厳しくなったんじゃないかという意見もあったそうです。それが本当かどうか分かりませんが、今、教育長もおっしゃったように、今年、授業をシェイプアップしているのに、何でこの結果だろうと思うところはあるそうです。子どもたちの授業への要求水準レベルが上がっているという見方を聞いて、私自身、なるほどそれもあるかなと思ったところです。
遠藤洋路 教育長	でも、要求水準が高くなったら、当然それに見合った授業をしていかないといけないならそうなんでしょうけど。 分かりました。そこはもう少し学校の話も聞いて考えてみてください。
西山忠男 委員	細かいことですけど、5ページ目の8番、その他の一番最後

	の5「1時間以上と答えた割合いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」、これは何か文章がおかしい。
福田衣都子 指導課長	大変申し訳ありません。文章を間違えておりました。正しく修正いたします。
遠藤洋路 教育長	これは「1時間以上と答えた割合」でいいんですか。
福田衣都子 指導課長	はい。割合です。申し訳ありません。
遠藤洋路 教育長	「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」というのは、別の設問が交ざっちゃったんですか。
福田衣都子 指導課長	間違って交ざっていたと思います。申し訳ありません。
遠藤洋路 教育長	ということだそうです。削除し忘れですかね。 これを見ると、今の5ページでいうと、中学校の方がICTを使っていると答えた割合が高い傾向があるわけですが、実際学校を見ると、どちらかというと小学校の方がよく使っているように思うんですけど、週1回以上という割合だからなのか、どうなんでしょうか。日常的にやっぱり中学校の方がICTをよく使っているという評価でいいんですか。どっちも高いんですけど、中学校の方がより活用が進んでいますよという評価を今まであまり現場では聞いたことはないんですけど、どうなんでしょう。
松島孝司 教育次長	実際どうなのかというと、私は、あまり変わらないのかなという気がしています。子ども自身が使いこなしているというところで行くと、おっしゃるとおり、長く取り組んできた分だけ小学校に分があるのかもしれません。ただ小学校で慣れた子たちが、もう既に中学校に入学していますので、中学校も意外とやっているんだろうなという感覚はあります。 学校訪問で授業を参観させていただくと、子どもは使っていないんだけど、先生がICTを駆使して電子黒板を使って授業している場面は、逆に中学校の方が多い印象はあります。
遠藤洋路 教育長	なるほど。ICTを使ってというのは、使い方ではなくて、授業で提示するために使っていることもここに含まれていると

松島孝司 教育次長 遠藤洋路 教育長	ということですね。 もしかしたらですけど。 それぞれの場面、場面で見ていくと、そうなるんでしょうかね。考えをまとめ、発表する場面で使っているかというのだと小学校の方が高い。でも、どちらも大差ないですね。94と97でそんなに変わらない。分かりました。 他にご意見、ご質問はありますか。 ご発言がないようでしたら、本件は以上といたします。
・報告（7）令和5年度（2023年度）熊本市立学校管理職等採用選考試験の申込状況等について	《濱洲義昭 教職員課長 報告》
遠藤洋路 教育長	ただいま説明がありましたように、校長試験に関して、かなり一時期に比べれば受験率といいますか、回復してきている。ほぼ全員が受験しているような状況ですけど、教頭試験はだんだん下がっているという、ここはこのまま下がり続けるのでしたら心配ですね。 何かこの2年間の要因というところとすぐコロナというのを思い出すんですけど、みんなコロナで試験準備どころじゃなくて受けていないとか、何か理由があるんですかね。
濱洲義昭 教職員課長	コロナに関連して言うのであれば、例えば校長から声かけをするようなコミュニケーションの不足の問題があるのじゃないかなという話も出ています。推測です。 大本の問題でいきますと、課内で話している限りですが、やっぱり教頭の業務の忙しさが目につくと。それから、管理職を目指すよりも教壇に立ち続けたいという気持ちが強い方も相対的にいるのではないかなというような話がありました。 もう一つは、管理職の育成という手法の学校の中での一つとして、校務分掌を割り当てるときに、例えば小学校でいくと教務主任ですとか、中学校でいくと生徒指導主事、そのような校長、教頭に次ぎ、学校経営に大きく携わるようなところのポジ

	ションが、今、年齢構成を見ていると、50代の職員が非常に多いんです。3分の1強ぐらいを占めています。その中間的なポジションを50代の方がやってらっしゃるという実態もあるようです。 ですので、教頭をやりたいということであれば、もっとそのようなポジションを40代の方に担わせるとか、そういった人材の育成が必要なんじゃないかなと、このようなことを話しておりました。
遠藤洋路 教育長	分かりました。忙しいという意味では、この2年間で特に教頭が忙しくなったということはないんでしょうから、この2年間の変化の理由は何なのかなというのは少し気にはなりますよね。
松島孝司 教育次長	この2年間となると、やっぱりコロナ対応ということです。例えば、コロナ感染陽性者が出た場合の対応や諸機関との連絡調整は、教頭がやるというパターンがどうしても多くなっています。ある意味では、これまでなかった業務が教頭先生にプラスされたという見方もできます。もしかしたら、教頭先生のその姿が、教職員の皆さんに「大変そうだな」と映っているんじゃないかなという危惧はあります。 私自身は、今回の傾向としては、教頭業務がコロナ対応でさらに大変そうに映ったんじゃないかなと思っていますし、実際そういう場面は多かったんだろうと考えています。
遠藤洋路 教育長	ただ実際問題、教頭の勤務時間が増えているのかというと、そこは増えてはいないんですよね。今、学校改革推進課で調べていると思いますけど、見た目大変そうだということはあるのかもしれません。 だとすると、今教頭になったら大変だ、コロナが終わってから教頭試験を受けようという、終わったらどっと増えるという、そういう期待をしてもいいんでしょうか。
松島孝司 教育次長	いずれにせよ、学校改革において、働き方改革の一つの要として「教頭職の業務軽減」を打ち出していますので、今後さらに進めていく必要があるだろうと思っています。
遠藤洋路 教育長	仕事が大変だということが、受験率が下がっている原因なの

	であれば、もちろんそれを改善すれば元に戻るんですけど、何か違う原因だったら、働き方改革とは別の対処ももしかしたら必要なかもしれない。何かそういう心当たりは、皆さんにはあまりないですか。急に教頭になりたい人が減っている理由は何か。 田口部長、どうですか。
田口清行 学校教育部長	管理職を目指すということで共通するのかなと思うのですが、何人かの校長先生から、業務が大変なので、教頭先生の中で校長にもうならないという声も聞こえています。 校長、教頭といういわゆる管理職の大変さというのを目にされているので、働き方改革が進んで、いわゆる教諭の方々の働き方の改革はかなり進んできたものの、教頭先生の働き方改革については、進んではいるのですが、その進み方に差があって、大変に映っておられるのかなと思います。そこは私の個人的な感覚なのですが、そういうお声も校長先生、教頭先生からも聞こえていて、全てではないと思うのですが、一部ではそういうことも聞こえてはいます。
遠藤洋路 教育長	分かりました。そうするとやっぱり働き方の問題が大きいんですね。
田口清行 学校教育部長	そうですね。
松島孝司 教育次長	これはあくまで個人的に思っていたことですが、職員の年齢構成の部分です。私は、今年退職を迎える59の年なんですけど、私どもの世代が一番多い世代で、この50後半というのが最も厚い年齢層です。一方、40代の方々というのは、かなり少ない状況でございます。教頭受験を考える時期というのが大体50前、40後半ぐらいからと考えれば、現在は、教頭を志す人たちの層が一番薄い時期になってきたといえます。例えば、平成24年は、私どもが50歳前後の時代で、一番教頭を志す人たちの層が厚かった時代ですので、志願者も多かったといえます。年齢構成が変わってきているがゆえのこの推移ということも考えられなくはないかと、以前から思っていたところでした。これはあくまで推測です。
遠藤洋路 教育長	該当する人数が少なくなっているから受験者が少なくなっ

いるという面は間違いなくあるわけですよね。ただその影響を除いたらどうなのかというのを見るために、受験者の該当者の中で、例えば有資格者の中の受験した人の割合を見ているわけですが、それも下がっている。

ただ、そこもおっしゃるように、もしかしたら年齢に関係があって、残り何年かとか。40代前半で若かったら、仮に該当していてもまだいいやと思う人もいるのかもしれないです。単純に該当者の中のどのぐらいの割合が受けたかということだけではなくて、その該当者の中の年齢構成によって受験する率も変わる。それもあるかもしれません。

そうだとすると時間的な問題で、だんだんまた増えてくることが期待できるのかもしれないですけど、それは分からないですね。

いずれにしてもこの2年間のものなので、もう少し推移を見ていってもいいんじゃないということでしょうね。

去年の校長と教頭の話ですけど、179人で合格しているのが40人ぐらいで、4倍ぐらいあるわけです。別の都道府県で、管理職試験を受ける人で4倍もいるなんて信じられませんか、1.0倍ぐらいのものだと、あるいは最高1倍を切るんじゃないかぐらいの状況なのに、熊本市は何で4倍もいるんですかと聞かれたことはありますけどね。

まず、何でこんな管理職試験を受けた人の数とか割合なんていうことを公表できるんですかと聞かれました。そんなもの絶対に外へは出せませんという自治体もありました。

倍率が高いから出せているというものではないんですけど、低くても出しますし、ずっと出していますけどね。習慣的な問題なんじゃないかな。

何か管理職への登用の仕方というのも、都道府県ごとに違いがあるみたいです。

都道府県によっては、市町村単位で、その市の人がその市の管理職になるということもあるみたいです。あと、試験がないということもあるんです。校長の推薦で管理職。だからいろいろあるんだなと思って。意外と日本も広いなと思います。

西山忠男 委員

市立学校改革の議論の中で、民間から校長を登用することも考えるという話もあったかと思いますが、それは具体的に検討されていらっしゃるんですか。

松永直樹 学校改革推進課長	具体的に検討は行いましたが、実際改革を進めるに当たりましては、いきなり校長というよりは、アドバイザーでありますとかコーディネーターといいますか、内外の調整的な役割のほうより求められていたという現状があり、具体的にこの方がというようなイメージはなかったということもありますので、やるとなれば公募をするのかとか、実際他都市にも事例がございますが、そういったところを考えていくと、現時点においてはまだそこまでの状況にないのかなというところです。 さらには、高校・専門学校改革においては、各校の校長先生が推進されていらっしゃる場所がありまして、私たちとしては基本的にはそこをバックアップするというのが非常に大事だと考えたところでしたので、具体的に実現に至るところまでの検討は進まなかったというのが実情です。
遠藤洋路 教育長	他にご意見、ご質問はありますか。 ご発言がないようでしたら、本件は以上といたします。

日程第5 自由討議

- ・（1）新型コロナウイルス感染症に対する新しい対応について

《中川浩二 教育政策課長 説明》

遠藤洋路 教育長	では、ただいまから討議に入りますが、最初に、本日欠席の澤委員から事前に質問をいただきましたので、それについて取り上げたいと思います。 まず、資料1ページ目に陽性者数のグラフがあり、毎日学校からこの報告が上がってグラフに反映されていると思いますが、この学校からの報告が毎日必要なのかということです。学校の負担なんじゃないかという趣旨だと思いますけど、この点についてはいかがでしょうか。
上村清敬 健康教育課長	澤委員からは、インフルエンザの場合は月に1度の報告でいいのに、何でコロナだとこれだけ毎日報告しなければならないのかという、学校の負担であるというようなご意見です。 確かにインフルエンザにつきましては、月1回、学校は教育委員会に罹患者数を報告するのみであります。これを教育委員

遠藤洋路 教育長	会でまとめまして、保健所に学校数と罹患者数を月に1度報告しております。 対しまして、コロナに関しましては、土日、祝日を除きまして、毎日学校から校名、学年、クラス、氏名、部活は何に入っているか、感染経路、いつ検査したのか、いつ判明したのか、学級閉鎖等を行う場合はその閉鎖期間等につきまして、教育委員会に報告を上げていただいております。これは主に1週間以内に校種、校名、判明日、感染経路を文科省に報告する必要があることが理由の一つであります。文科省はそれを調査・分析されております。 また、昨年までですけど、学級閉鎖等の臨時休業の必要性の判断について、教育委員会と学校が感染者が出るたびに協議を行ってまいりました。その際にはやはり先ほど報告いただいたような情報が必要となっておりました。 しかしながら、まず、文科省への報告につきましては、今月8月1日から、判明から1週間以内という頻度が月1回の延べ数だけでよいと変更になりました。また、学級閉鎖の判断、その必要性につきましては、今年に入りましてから、例えば同一学級で複数の感染者が出た場合など、目安を各学校に示しましたので、閉鎖の必要性を感染者が出るたびに学校と市教委で協議する必要性はなくなったところです。 このような点からは、現状、毎日報告を受ける必要はありませんが、一方で、どの学校でどれだけの児童・生徒が日々感染しているかにつきましては、これを市長と共有するために、毎日市長報告は行っているところです。ただ、このようなご指摘を踏まえまして、市長に情報共有が必要かどうかにつきましても秘書課と協議してまいりたいと思います。 また、昨日、国では全数把握の見直しを自治体ごとに判断できるという方針を示されたところでありまして、文科省への報告内容も、これを受けまして変更される可能性がございます。その辺も踏まえまして、学校から教育委員会に報告する頻度であったりその内容につきましては、見直しを検討してまいりたいと考えております。 分かりました。これまでは毎日、今言ったようにいろいろ報告を受けていたけど、その必要性がだんだん変わってきているということですね。 市長に報告するというのは、当然保健所からも市長に上がる
-----------------	--

	わけですけど、それと別に市長に報告しているのは、保健所は別に学校別にまとめていないからという、そういうことですね。 基本的な考え方としては、報告に関しては、もう全部最低限でいいんじゃないんですか。報告するということに関しては月1回レベルでいいでしょうし、上限は週1回でいいし。そうやってできるだけ負担を減らしていくということは大事なのかなと思いますけど、あとはそれをどういうタイミングで見直してどういうふうに周知していくかということですね。あまり頻繁に見直したら余計に面倒ですし。 2学期が始まるので、このタイミングでという一つの区切りがあるんじゃないかな。 では、この点は澤委員からのご質問でしたが、他に、今のに関しても結構ですし、別の話でも結構ですので、各委員、皆さんからご意見、ご質問があればお願いします。
西山忠男 委員	最初にこの協議会のテーマを提案したときはそんなに感染者数が増えてなかったんですけど、急激に増えてしまって、やっぱり一番大変なのは、教職員自体が感染しているために現場で人手不足が起こっているということですよ。ご説明にありましたように、オンライン配信も増えて、その負担が大きくなっているし、教職員自体が減っているの、授業自体がもう成り立たない場合もあるんじゃないかと思うんです。そういうときに、さっき話にあったように教頭先生が代わりにこういう授業をしたりする場合もあって、教頭先生に非常に大きな負担がかかっているでしょうし、教頭先生自身が感染したら学校現場はどうなるのかという、そういう心配もありますよね。 9月に入って収まってくればいいんですが、高止まりの状態が続いているので、このままいくとするとその点の人の手当てをどうするのかということを考えておかないといけないんじゃないかと思うんですけど、いかがでしょうか。
遠藤洋路 教育長	そこはおっしゃるとおりです。来週から2学期ですからね。考えておかないといけません。
田口清行 学校教育部長	今、西山委員からご質問がありましたが、委員会としても、今非常に先生方の感染、また濃厚接触で勤務ができないという状況等が生まれておりますので、それについてどのように考えるのかということで話し合いを持ったところでございます。

	ある程度は学校で今工夫をしていただいていて、空いている先生方でカバーをする、また、オンラインを活用しながら複数学級で同時に授業をするということも実践をされているところでは。 それでも様々な工夫の中で、学校運営等が難しいという場合には、当然学級・学年の閉鎖、それから休校ということも考えざるを得ないかなというところで、そこにつきましては学校にも、そのような検討もお願いをするところですし、また、判断等に苦慮される場合には、委員会と相談をしながら決定をしていくということでお知らせをしたいと、このように考えております。
西山忠男 委員	最後の手段なんですけど、今までは生徒が病気になって学級閉鎖とか、最悪のときは学校閉鎖ということがあったと思うんですけど、教職員が感染して学級閉鎖とか学校閉鎖とかいうのは全くなかったことですよね。だから、それについて保護者の理解が得られるのかという心配があります。教育委員会が何とかしなさいよと、先生が感染したんだったら教育委員会から助けを出すべきじゃないですかと、一般市民はそう思うんじゃないかと思うんです。その考え方を整理しておかないと混乱するんじゃないかと思うんです。
田口清行 学校教育部長	その点につきましても、数的に学校やあるいは学級・学年等の数が少ないようでしたら、これまでもある程度、委員会から職員を派遣して対応していたケースもあります。 ただ、かなり数が多くなったときには、どうしても対応ができないということもありますので、そこは状況を見ながら対応を考えていきたいと思っております。
遠藤洋路 教育長	いろんなケースを想定しておく必要があるので、教育委員会が対応して応援すれば学校が運営できるケースと、それでもできないケース、両方想定しておく必要があるんでしょうね。
小屋松徹彦 委員	今のケースの場合に、先生が自宅から学校にいる子どもたちにリモートで授業するというのはやったことはないんですか。
田口清行 学校教育部長	今のご質問についてなんですが、陽性の方については療養が優先ということになりますので、陽性の方は当然オンラインは

	控えていただき、療養に専念していただくということになります。 濃厚接触の方で体調に異常がない方については、ご自宅からオンラインをしていただくということも考えられるかと思っております。
松島孝司 教育次長	補足になりますが、ご記憶にもあるように、昨年度、9月には分散登校等を行いました。あの時にも教職員の在宅勤務を可能な限りやってくださいということで、在宅で授業配信を行った場合も結構ありました。そこで培った在宅での授業配信のノウハウは、ある程度学校も持っていると思います。可能な先生はそういうことも今後、必要に応じて取り組んでいただけるんじゃないかと考えているところです。
遠藤洋路 教育長	病気で休んでいる人が仕事をするわけにはいかないでしょうから。
小屋松徹彦 委員	今の濃厚接触者で休んでいるとか、そういう方については可能性ありですね。
遠藤洋路 教育長	本人は陰性なんだけど濃厚接触で待機しているという場合には、家からリモートでというのもあるかもしれません。ただ、今はもう濃厚接触の待機は大分短いんでしょうかね、3日。
田口清行 学校教育部長	そうですね、最短3日ですね。
遠藤洋路 教育長	ですから平日であれば3日ですけど、週末だったらほとんど休まなくてもいい状況になりますよね。もちろん家からのリモートなどもできるようにはしていく必要があると思うんですけど、実際にそれを発動できる場面が多くあるかはやってみないと分からないですね。 それから、児童・生徒もやっぱりたくさん休んだときに、例えば、陰性の濃厚接触というのも含めて、学級の半分ぐらいしか来ないという場合に、もういっそのこと全員自宅でオンラインでやりましょうと、そういう方法もあるかもしれません、場合によっては。中途半端に半分来て半分休みますというよりは、どっちかにしたほうがいいのかもありませんね。期間によっても変わってくるでしょう。1日、2日なのか長いのかによって

	も変わるでしょうし、あと学年によっても、小学校の低学年と中学校3年生では違うでしょうし、いろんな場面に応じていろんな選択肢、こんな可能性があってこんな対応が考えられるというのは、できるだけ数多く想定していく必要があるのかなと思います。
小屋松徹彦 委員	4ページの音楽の時間の令和4年度には、今、「歌唱・吹奏楽はマスク着用で実施」と書いてありますが、管楽器というか吹く楽器はどうしているんですか。そのときだけマスクを外して吹いて、またするというで乗り切っているのか。というのは、結局飛沫でしょう。吹くことによって飛ばないんですか。トランペットですとか。そういったものを現場ではどうしているんだろうと思ったんです。
福田衣都子 指導課長	今回の調査、各研究会の会長にお尋ねしていますので、全校が全てそうかというところは把握できてはいないんですが、そういう場合におきましても、距離を取るなどして工夫して実施しているという実態はあるかと思います。歌唱はマスク着用、吹奏楽もそういう場合はかなり距離を取って行っておられるんじゃないかと考えております。
小屋松徹彦 委員	距離を取ってということですね。
遠藤洋路 教育長	これは各教科の授業で言えば、吹奏楽といってもトランペットなどよりも、リコーダーですよ。部活はいろいろあるかもしれないですけど。ここに吹奏楽と書いてあるけど、主にリコーダーでしょうね。
福田衣都子 指導課長	特にリコーダーとかは、間を空けて、子どもたちが廊下で練習したり、風通しのいいところで練習したり、それからロイロノートに自分で録音したものを先生に提出するとか友達と聴き合うとか、そういう工夫をしながらやっている学校もあると聞いております。
遠藤洋路 教育長	部活だったら部屋を分けて少人数ごとにやっているということがあるのかなと思います。
小屋松徹彦 委員	これは小中学校じゃないですけど、高校野球を見ていたら、

	あれは屋外だからプラスバンドでもばんばん吹いていたんでしょうかね。
遠藤洋路 教育長	確かに屋外で吹いていましたね。屋外だからかな。
西山忠男 委員	一つ気になるのは医療機関との連携なんですけど、今、ご存じのように、医療機関はパンク状態で軽症の患者は来るなみたいな扱いなんですよね。養護教諭が相談を受けたときに、例えば電話でうちの子はこういう感じでコロナかもしれないんですけどとかいう相談も来るかと思うんですけど、養護教諭は保健所とか医療機関につないだりするんでしょうか。どういうシステムになっているんでしょうか。
上村清敬 健康教育課長	養護教諭がそれぞれの保護者だったり児童・生徒だったり直接その辺を相談し合うということはないと思います。養護教諭は相談を受けた各担任等にアドバイスしたりということはあるかと思います。養護教諭が保健所との調整役を行うということはありません。
西山忠男 委員	じゃ、学校は全く保健所とかとは連絡を取らないんですか。
上村清敬 健康教育課長	以前、疫学調査を学校にしてもらっていたときは、頻繁に保健所と学校は連絡調整を行っていたんですが、今年度からは、もう保健所が学校に対して疫学調査を行わなくなりました。それ以降は保健所と学校というのは、特段連絡を取り合う間柄にはありません。
西山忠男 委員	じゃ、生徒はコロナに罹患したら、自分の責任で医療機関を受診するということですね。
遠藤洋路 教育長	一般の人と同じ扱いということですかね。確かに以前は学校で全部を調査、検査したりしていましたが、もうそれはしていませんので。
苫野一徳 委員	私もそれほど詳しくはないんですけど、2年半マスク生活をする中で、とても気になっているのが、2年半もの間、顔の半分を隠して成長してきた子どもたちです。実際に何かで読んだところでは、特に幼児なんかだと、コミュニケーションだった

	り、あるいは言語の発達に影響があるということがもうだんだん研究でも分かっていっているところがあるらしいと。 私も大学生たちとZ o o mで授業をしていますが、Z o o mで自宅でもみんなマスクをするんですよ。やっぱり恥ずかしいんですよ、マスクを取るのが。それを外せと言うのは、それは思春期のいろんな時期ですから乱暴だと思うんですけど、何か非常に心身や脳の発達に対していろんな影響が出ていると思うんです。この辺を何かケアできるようなことを考えられないかなというのはちょっと思うんです。専門家の方たちと一緒に、そんな余裕があるのか分かりませんが、でも、やっぱり子どもたちにとって一大事だと思うので、何かそういったことも考えていったらいいんじゃないかなと思います。
遠藤洋路 教育長	もっともなご指摘です。そういう専門家というのはどこにいるのかお伺いしていいですか。
苫野一徳 委員	何々心理学の専門家とか、あと心理学とか、そういったものでこういったことを多分研究されている方っていらっしゃると思うんです。例えば、そういう方たちと現状で何かできること、教育の専門家みんなで何かできることがないかなというのを考えてみてもいいのかなと思います。でも、それで例えば無理やり、みんなZ o o mで顔を出しての会をつくりましょうとかいきなりやっても、ちょっと乱暴だったりすると思うんです。みんな本当に結構恥ずかしがる子が多いんですよ。何か上手にそういったものができたらいいなと思うんですけど。
遠藤洋路 教育長	熊大にそういう専門の研究者もいらっしゃいますか。
苫野一徳 委員	ちょっと私は存じ上げないんですが。
遠藤洋路 教育長	医学部ですかね、教育学部ですかね。
苫野一徳 委員	そうかもしれないですね。発達心理学、児童の心理学とか、調べれば何か出てきそうな気がするんですけど。
出川聖尚子 委員	私も分かりません。
遠藤洋路 教育長	もしそういう専門家が、特に熊本で身近にいらっしゃるんで

	したら、ぜひ意見交換したいですね。
西山忠男 委員	前の教育委員の泉先生はそういう方面は詳しいんじゃないかと思うんですけど。
遠藤洋路 教育長	そうですね。以前、泉委員から、この教育委員会の会議でも、ゲームが発達に悪影響が出ているんじゃないかという問題提起をされていました。 泉委員に、ご本人でもいいけど、泉委員に紹介してもらえば専門家をご存じでしょうし、ちょっと連絡してみましょう。 確たることは分かっていないんだろうとは思いますが、そこまで世の中のみんなに認められているような事実というのはないのかもしれませんが、可能性としてこういうことがあり得るというのは十分議論できるでしょうから。
苦野一徳 委員	一定の年を経た我々からすると、人生の一部の間、顔が隠れていてもあまり気にならないんですけど、子どもたちにとって物心ついてからずっとというのは、これは相当、本当にまだ分からないんですけど、エビデンスも少しずつでまだしっかりと出ているわけじゃないと思うんですが、もしかしたらそれなりに真剣に考えるべきテーマなのかなという気はしています。
遠藤洋路 教育長	この学校に入ってからずっとマスクで、素顔で友達としゃべっていないということならば、確かにマスクを取るのは勇気が要るでしょうね。急に取ってくださいと言われても恥ずかしい。それはそうですね。プールのときにはみんなマスクしないでわいわいやっている場合はありましたけど、もしかしたら嫌なのかもしれないですね。 分かりました。その点は我々としても、ちょっと考えていきましょう。
出川聖尚子 委員	これも関係するかなと思うんですけど、学生でもコミュニケーションを取るような演習の授業でさえ、コロナで、コミュニケーションを取ることをしていない状況があって、今、実習に出していると、コミュニケーションがうまくできていないと指摘されることがあります。学校生活の中でもそういうこと自体の経験が減っているんで、実習の中で、そういうご指摘を受けることがあるのだと思います。コロナだったから子ども同士

遠藤洋路 教育長

で話すことが自然と減っていることの影響がすごくあるんじゃないかなというのを、大学生を見ていてもすごく感じます。まだ年齢が低い小学生とか中学生とかは、一層何か影響があるんじゃないかなと思います。

本当にどういう影響が出るのか、出ているのか、出る可能性があるのかということと、じゃ、どういうふうにして対処していくか。急に「マスクを取ってください」ができない話なら、ちょっとずつマスクを取る練習をするのかとか、そういうことも含めて、考えていく必要がありますよね。じゃ、マスクしないでいいのかと言われたら、そうでもないのかもしれないし、難しい問題ですね。

今ここでという話ではないでしょうから、ぜひ健康教育課も指導課も含めて検討しましょう。

言われてみればそうですね。私は、今年異動してきた上村青少年教育課長はマスクをした姿しか見たことがないですね。内村課長はもう十分に、十分と言ったらあれだけど、長年マスクをしていない顔を見えていますけど。

今回の自由討議のテーマは新しい対応についてということで、資料はこれまでの対応が出ているんですけど、これまでの対応を踏まえて、何か新しい対応を考えていく必要があるんじゃないか。その一つが今、苫野委員がおっしゃったマスクの問題だと思うんですけど、他に、これからもう少し今までと対応を変えていく、あるいは変えることを考えていかなきゃいけない、そういうテーマが、もしお心当たりがあれば伺いたいと思います。

あと澤委員から質問があった報告についてです。各学校からの報告も変えていく、直していく必要があるのかなと思います。

それから、日頃何か困っていることとか、この辺どうなのというのは、事務局も含めて何かあったら伺っておいたらいいかと思うんですけど、何か学校から、この辺何とかならないかというような、そういう声は、今のところ上がっているものがありますか。

西山忠男 委員

ちょっと気になるのは体育なんですけど、体育は基本的にマスクを外してやるし、先ほどの話のプールもそうですね。そういうところでの感染がやはりちょっと心配で、これだけ感染者が増えてくると、そういう機会に感染が広がるという恐れも

	あるんじゃないかと思うんです。だから、そこをどう考えるのかなと。やっぱりマスクをして体育をしなさいと言うのか、感染するかもしれないけど、体育のほうが重要だからマスクを外してやりなさいと言うのか、そこは難しい判断だなと思うんですけど、いかがでしょうか。
遠藤洋路 教育長	体育に関しては、基本的にマスクは外してやろうという方針になっているかと思いますが、熱中症のほうが危険だという、特に季節的なものになりますけど、そちらのほうを優先するようにということでやっているかと思いますが、どうですか。
松島孝司 教育次長	そのとおりです。
遠藤洋路 教育長	どうしても外したくないという人に強制はもちろんできないわけですけど、一般的にマスクは外すように指導する、そういうふうになっていると思います。
松島孝司 教育次長	先ほどの学校での困り感の話です。今の状況は、やりたいこともできないということで、学校にとっては困ったことばかりなんですけど、その中でも確かにそうだなと改めて思ったのが、給食後の牛乳パックの洗浄です。ある校長先生との話の中で、コロナ対応の中で、改めてどうにかならないのかと、話題に出たところでした。私自身もそれはそうだなと思いながら、再度考えますという話をしたところだったので、ずっと気になっていました。
遠藤洋路 教育長	それは私もどうにかならないかということで、上村健康教育課長に検討をお願いしているところなんですけど、今は検討中ですね。法令的な問題とキャパシティの問題と様々あるわけですけど、できるだけ学校の負担にならない方法を教育委員会としてはやっていく必要があるかもしれないですね。検討中ですけど、今ここで何か言えるようなことはないですか。
上村清敬 健康教育課長	検討中というか、どちらかというと妙案が全く浮かばない状況でありながら、教育長からの宿題ですのでちょっと頭を悩ませているところなんです。燃やさないなら誰かが洗わないとリサイクルできないということで、今学校の負担で洗っているという現状にあります。燃やすことは市の方針としてできないと

遠藤洋路 教育長	いう状況で、こういうことになっているところです。 そこは教育委員会として燃やそうという方針を決めて、市の中でそのようにするというのも一つ考えられることとしてはあるかもしれません。 皆さん、どう思われますか。これまでの状況をご存じですか、あまりご存じないですか。 どういう話なのかも説明していただいていいですか。
上村清敬 健康教育課長	経緯をご説明しますと、令和元年度までは牛乳メーカーが牛乳を持ってきて、帰るときには前日飲んだ牛乳パックを持って帰っていただいて、リサイクルしていただいていたという状況でした。これが2つ、法令的に問題がありまして、1つは食品衛生法上、きれいな牛乳を持ってくる車庫内に汚い牛乳パックを入れる、これが食品衛生法上、問題がある。 もう1つは、学校は事業所の一つになるんですけど、事業者がごみを処理する義務があるにもかかわらず、学校がやらずに牛乳パックを牛乳メーカーに任せているという廃棄物処理法上の問題がありまして、牛乳メーカーから引取りを拒否されたという経緯があります。 教育委員会として検討しまして、燃やしたいということで、所管が環境局になりますので、環境工場で燃やさせてほしいと申し入れました。市は、十数年前に事業所の紙ごみについては燃やさないと方針転換しております。九州の中で珍しいほうなんですけど、リサイクルにかじを切るという意味で、事業者の紙は全てリサイクルしていただく方針ですので、これは学校の牛乳パックに限らず、事業者が事業活動で発生する紙ごみについては燃やすことができないということになっているということでした。 それをどうにかできないかということで教育委員会から環境局に申し入れたわけですけど、そういう歴史のある方針であり、環境局としては、学校で洗うことが逆に環境教育につながるんじゃないですかということでお断りしたいということでした。お金さえ積みれば誰か他の人に洗ってもらおうという方法もあり得るんですけど、それは相当な金額になりますので、現状、学校で児童・生徒が洗って、それをリサイクルに出す。学校の負担で成り立っているという状況です。

遠藤洋路 教育長	そういう状況で、学校で今、牛乳パックを洗っているんです。 ただやっぱりそれは、もちろん大変だということもあるし、衛生上、本当にそれがいいのかということで、一時期燃やしていたんですよね、一回、コロナの出だしの頃。
上村清敬 健康教育課長	これは正直環境局としてはまだ表にしてほしくないことだと思うんですけど、コロナがどういう感染症なのか分からない未知の時期でした令和2年度から学校で洗うと言っていたんですけど、令和2年度になってだんだんコロナがはやり始めて、そういう中で児童・生徒に洗わせていいのかという教育委員会の疑義に対して、特例的に1学期間だけ燃やすということになったんですけど、だんだんコロナの特性も分かってきて、洗うだけで感染するものではないということも分かかってきた中で、現在は先ほど申し上げたようなリサイクルの方法をやっているということです。あくまであれは特例的という環境局の見解だと思います。
遠藤洋路 教育長	だから、選択肢としてはもう市の方針を変えて燃やすか、あるいはリサイクルを別の人にやってもらうか。学校がやらない方法としてはその2つのどちらかということですかね。あるいは燃やさないけどリサイクルしないという、埋める。
上村清敬 健康教育課長	廃棄物の処理の方法には、おっしゃるように焼却と資源化と埋立てという方法とがあるんですけど、市の方針として、事業者の紙ごみはリサイクルする、資源化するということになっていますので、当然燃やすのも駄目だし埋めるのも駄目ですと。
遠藤洋路 教育長	埋めるのも駄目なんですね。まあ、そうですね。
西山忠男 委員	紙パックをやめて瓶牛乳にはできないんですか。
上村清敬 健康教育課長	当然2、3年前にはその検討も行われたんですけど、瓶牛乳を洗う施設というのが熊本にはなく、それで断念したという経緯がございます。
遠藤洋路 教育長	なら、いつそのこと牛乳ごとやめるという選択肢もある。
上村清敬 健康教育課長	それも検討されておりまして、栄養基準を満たすためには、

	牛乳のカルシウムというのは他に替えられないということで、牛乳を飲まないという選択肢を選ぶと、栄養基準を満たさないという問題がありまして、やはり牛乳はちょっと外せないという結論に至りました。
出川聖尚子 委員	子どもに自分のごみを自分の家に持って帰ってもらうということはできないでしょうか。
上村清敬 健康教育課長	それも検討されております。ただ、事業所で発生したごみを家に持って帰って家庭ごみで捨てるというのは、市としては看過できない処理方法になり、それはまた許されることではないということです。会社のごみを家に持って帰ってごみステーションに捨てるというのを市として容認することはできない状況です。
遠藤洋路 教育長	児童生徒が6万人いますから、基本的に大っぴら以外にはできないわけです。 何か大きなボトルで持ってきて、みんなでコップについて飲んでコップを洗う。ローソンの看板みたいな、こういうでっかい牛乳、それをもう給食センターで回収して、他の食器と同じように洗う。こういうのは、これも衛生上無理ですか。
上村清敬 健康教育課長	それは恐らく検討したことがないと思います。
遠藤洋路 教育長	食缶で牛乳を持ってくる。
上村清敬 健康教育課長	缶ですね。
遠藤洋路 教育長	そんなタンクを扱っている牛乳屋さんはない。
上村清敬 健康教育課長	そうですね。それが学校ごとに必要になってきますので、できるのかできないのかというのは確認したいと思います。
遠藤洋路 教育長	牛乳屋さんもちろん紙パックに詰めなくていいから楽なんじゃないのかな。そんなことないか。ちょっとそれも考えてみましょう。
小屋松徹彦 委員	昔、脱脂粉乳の時代に、私はやかんで配ってた。

遠藤洋路 教育長	だから、それに近いようなものに戻る感じですね。
出川聖尚子 委員	きれいな牛乳を持ってくる車でごみを回収するのがいけないとおっしゃったんですけど、車を替えてもらってごみだけ集める車にしてもらうということはできないんですか。
上村清敬 健康教育課長	食品衛生法上はそれで問題ないと思うんですけど、もう一つの問題にある廃棄物処理法上、事業者の責任においてごみを処理するということになっていますので、結局牛乳メーカーが新しい車で来たからといってそこに押しつけるわけにはいかないという状況です。
遠藤洋路 教育長	リサイクルまでやってくれる別の業者があればまた別ということですよ。ただそれにはそれなりのお金がかかるだろうということになるかと思います。 市として、どうしても燃やさないんだ、リサイクルするんだと言うんだったら、そういう予算をつけるべきだと私は思います。予算を増やすかどうかだと思うんです。 なかなかこの問題は妙案がないんです。妙案がないんだけど何とかしなきゃいけないということなので、問題意識はあります。 あと、この資料にある課題、学校運営における感染防止対策の変化、4ページの課題というところで、「オンラインでの授業配信の要望が多くなり、教職員の負担がととも増加している」、これも課題として大きなものになるんだと思うんですけど、これは現状どうなんですか。 「教職員の負担が増加している」じゃなくて「教職員の負担がととも増加している」とあえて書いてあるけど、とても増加しているということなのかどうか。
福田衣都子 指導課長	これも一部の校長先生からのご意見の中で作成していますので全校のご意見というわけではありませんが、詳しい内容を読みますと、オンラインで一斉に授業をするときには、対面で授業する場合とは違う構成にやはりしなきゃいけない。当日の朝からのご希望もあったり急な対応も必要になると、そういうことも含めて、やはり負担になる部分もあるのではないかと読んで考えたところです。

遠藤洋路 教育長	これは休校とか学級閉鎖とかになったときにという話なんですか。それとも日頃からライブ配信はするんですか。
福田衣都子 指導課長	子どもたちの希望により配信をしますので、休校とかではなく、その子が休んで、だけど家でオンラインの配信を受けたいという子どもさんへの対応として、時には違う構成にして対応することがあるというところで理解しました。
遠藤洋路 教育長	そこは違う構成にまでしなくていいということを言ってあげたほうがいいんじゃないんですか。
福田衣都子 指導課長	基本的にはもう流しっ放しでいいですよというのが最初の本来の導入だったと思いますので、多くの学校はそうしていると思いますが、中にはやはり子どもたちのことを考えていろんな工夫をさらにしている学校もあると考えます。
遠藤洋路 教育長	恐らくそれが負担になって大変なんだということであれば、無理にそこまでしなくてもいいんじゃないのかなという気はします。 「とても増加している」のと、次の「マスクを外さない児童生徒」も多分「とても増加している」んじゃないかという気もするんですけど、上に「とても」と書いてあるから、きっとそういう強い、伝えたい気持ちがあるのかと思います。 やっぱり内心、「これをやってくれ」「あれをやってくれ」と言われると、何か応えなきゃいけないと、そういう気持ちになるのは確かですし、断るのも負担なのかもしれないです。 こういうことを名目に、また人を増やすという予算要求をするということもできるんじゃないかという気はします。事あるごとにどうやって予算を増やすかということを考えているので、何かあればすぐに予算要求するということでもいいんじゃないかと。その結果、予算がつかないこともあるけど、いや、言ってみるものだなと、予算がつくねということもありますから、これからはいろいろやってみましょう。 2学期からの対応は、これから、学校教育部が学校にお知らせを出す予定にしています。2学期が始まっていろいろと対応が必要になったら、また教育委員会でも協議しますし、また機会があれば委員の皆さんにもご意見を伺いたいと思いますの

令和4年（2022年）8月 教育委員会会議録【8月25日（木）】

〔閉会〕 遠藤洋路 教育長	で、よろしくお願いします。 では、自由討議は以上といたします。 本日の会議日程は全て終了いたしました。これで、令和4年8月定例教育委員会会議を閉会いたします。
--------------------------	---